

令和 4 年度 第 6 回 摂津市立 千里丘 小学校 学校協議会 要点 録

令和5年1月20日(金)18:30~19:45

於:千里丘小学校 東棟1階会議室

記録:紅林 陽子(事務局:本校教頭)

出席委員:中田 康之・以登田 毅・佐野 英和・藤浦 清美・前馬 晋策・寺田 洋子・橋爪 恵子・武友 加代子
河合 隆之

欠席委員:木下 さひ子・谷口 浩之 (敬称略)

学校出席者:校長 撰田 裕美・教頭 紅林 陽子

1. 校長より挨拶

三学期が始まり、市内で言うとインフルエンザや新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖の報告があるが、本校では今のところそのような感染状況にはない。しかし、全く感染者がいらないわけではなく、これらの感染症に加えて胃腸炎やおたふく風邪等の児童も出ている。感染対策を講じながら教育活動を進めている。

2. 学校の様子(前回の協議会から)

- ・ 12月19日(月) リトルカメリアコンサート(3・5年生対象)
- ・ 23日(金) 2学期終業式
メンター・メンティ研修(3学期・年度のしめくくりに向けて、など)
- ・ 11月10日(火) 3学期始業式
- ・ 16日(月) 避難訓練…実際の状況を想定して、周知がない中で訓練実施(今までの集大成)
余震を想定しての避難訓練は、本校で初めて実施。
足はやチャレンジ 第2弾
- ・ 17日(火) 体育授業研究(安全確保・体育実技の研修)
- ・ 19日(水) 新入生 入学説明会(新町への転入が多くなっている)

校長:足はやチャレンジの第2弾を1月16日から始めた。この時期、持久力をつける取組を行うが、長い距離、トラックを何周も走る、という単調な活動になりがち。マラソンが得意な児童もいれば、“苦手”“嫌”と感じる児童も多い。教員も指導をどうするか悩むところであり、取組みのあり方を工夫できないかと考え、次のような取組を進めている。

①ウォーキング、集団(グループ)で一定のスピードで走る、駅伝、サーキットを取り入れる、などの活動を体育の授業で取り組む。

②生活習慣、食習慣、運動習慣(ダンスやトレーニングなども含めたもの)の改善に取り組む。
今回のチャレンジカードはビンゴを作っていく形。それぞれの習慣をチェックしながら、取組を進めているところ。ウォーキングやジョギングは大人になっても取り組む人が多い。走るのが速い人がどんどん走るのではなく、自分の目標に向かって努力し、達成感が持てるような取組を、と考えている。

委員：千小だよりを見ると、食習慣と結び付けていると思う。その辺の関連はどうなっているのだろうか？

校長：走るためには健康な身体をつくる必要がある。そこで、給食を題材として食べるものと運動を結び付けている。給食の時間に三色の三大栄養素について栄養士が給食を解説し、児童に食の大切さを実感させながら取組みを進めている。「タンパク質は筋肉を作る」「エネルギーになるには炭水化物をとらないといけない」など、栄養士が給食の時間に回って呼びかけている。また、「たべものしんぶん」を発行することで、家庭にも呼びかけて連携を図っている。

委員：なるほど。走っている途中で給水やエネルギー補給をしたりするのかな、と勝手にイメージしていた。

校長：現段階では調整中だが、そういった観点からの取組みも検討中である。水分補給が体にとってどのように大切なのか、国循から話をしてもらうように計画しているところだ。国循の話の後には、実際に給水を体験してみることにトライしてみようと考えている。飲みながら走ることは難しいと思うし、うまくいくかは分からないが…。

委員：いいと思う。

校長：また、夏場にスポーツドリンクを水筒に入れて持ってこようとする児童がいるが、スポーツドリンクの糖分などについても触れて話をしてもらおうと考えている。

委員：例年参観でマラソン大会を行っていたが、今年もマラソン大会は最終的に実施するのか？

校長：参観はする予定。ただ、苦手な児童がみんなの前で応援されながら最後まで走り続けるのが辛い、という声もある。一定の時間走る時間走にすることで苦手な児童が目立たないような取組みをすとか、ウォーキングも含めてエントリー制にするか、保護者と一緒にウォーキングをしてもらう、など検討中。今までマラソンが苦痛で学校に来るのが辛い、という児童にとって少しでも前向きになるような取組みにしたいと考えている。

2. 令和4年度学校経営計画及び学校評価について

校長：今年度の学校経営計画の自己評価。前回、学校教育自己診断アンケートの結果を紹介させていただいた。アンケートは数字の評価だが、実感を含めた評価をした。

3つの重点目標について順に記しており、2ページ目の右の端が自己評価になっている。

1. 安全で安心できる学校づくり

(1) 人間関係作り・仲間づくりを意識した学校・学級

- ①「学校が楽しい」と感じている児童は微増しているものの、その中身・実態をつかむことが出来なかった、ということで○の評価とした。
- ②スタートカリキュラムの取組みについては、夏休みに横浜に視察に行き、学ぶことが出来たのは良かった。今までの学校でのスタートのあり方については見直しが必要であることが分かった。教員の意識改革は進んだものの、まだ具体的にどう改善するのかについては進んでいないので○の評価とした。

(2) 安心できる学校

- ①個に応じた適切な指導については、個別の指導計画を丁寧に見直し、支援学級と通常学級の担任が共有を年度当初に行ったことは有効だったと思う。また、市内の学校のうち延べ8校が本校の支援教育のあり方を視察に来るなど、本校の取組みを他校へ発信することもできたので、◎とし

た。

(3) 教職員が力を発揮できる学校

①メンター・メンティ研修を定期的実施し、その都度精度が上がってきた。その中で「一人で悩まずにすんだ」「失敗する前に事前のアドバイスをもらうことで、いろんな観点をもって取り組めた」といった若い教員の声があった。抱え込まさない、という点で◎の評価とした。

②組織で校務を行うことの大切さを実感できたかどうかについては、組織で働くことの大切さに対する気づきは出てきたものの、その効果を実感するまでには至っていない、ということで、△の評価とした。

委員：ここで言う「校務」とは、具体的にどんなものか？

校長：多岐にわたっている。校務分掌としては大きく 2 つ、①学習指導部②生徒指導部に分かれている。

①学習指導部では授業づくりや ICT に係る内容について

②生活指導部では、集団づくりなどの人権教育、生徒指導に係る内容について

委員：教員が 2 つの部会に分かれて活動しているということだが、人はどんどん入れ替わっていくと思う。より良い取組みになるような改善策など、次につながる引継ぎができるように資料は積み重ねて引き継ぐような形にはなっているのか？

校長：資料は毎年更新されて引き継がれるようにはなっている。ただ、新しい人、転勤者にとって見やすい資料になっているか、と言われると十分ではないかもしれない。

委員：みんなで校務を行うことを意識できている、という事だけでもすごいことだと思う。経験のある人が経験の浅い人に伝えていくことが大切。ベテランが若い人に伝えよう、と日々意識ができているのであれば、それで十分だと思う。

校長：校務が年々複雑化し増えていっている。担当はいるのだが、担当と担当の横のつながりが大切だ。点になってしまわないようにしないといけない。これでいいのか、と振り返っての結果。

委員：2 点お尋ねしたい。

1 点目は人間関係づくりについて。コロナ禍の中で、マスクをつけて目だけでコミュニケーションをとっている状況の中で、学校・学級づくりは難しいのだと思う。その辺で苦労したことがあれば聞かせてほしい。

2 点目は組織で校務を行う事について。若い人が何をしているのか分からないようなことになっていることになっているのではないかな。達成感や充実感を持てていないので、そんな評価になっているのか。職員室で教員の様子を見ている教頭先生の意見も聞きたい。

校長：マスクを介してのコミュニケーションの難しさについては、児童だけではなく、教員にもある。マスクで顔の大半が隠れていると、ちょっとした変化が見とりにくい。子どもたちも顔が見えないことに対してどういう意識を持っているのかは分からないが、高学年においては、マスクを外すことに抵抗を示す児童も出てきている。低学年では、誰が話しているのか分からないとか、口の形が見えない中で発音を学習しなければならないなど、何も支障がないという事はない。

委員：フェイスシールドは、以前教育委員会から送ってきていたが、あまり使っていないのか？

校長：今はあまり使っていない。

2 つめの質問。教員たちは毎日毎日新しいことを進めていなければならない状況の中で、必死。いいか悪いかは別として、勤務時間内に話ができる時間はほとんどとれない。悩みを受けてどうす

るのか、という事は難しいというのが実態。

教頭：経験の浅い教員はどうしても一つ一つの業務に時間はかかりがちで、遅くまで残って仕事をしているのも若い教員が多い。校務分掌については、経験のある者と必ず複数で担当になっているので、連携して業務に当たることができる。先輩からアドバイスをもらうこともでき、少しずつ自分でできることを増やしており、継承もできている。ただ、担任業務については一つひとつ自分で進めていかなければならない状況があり、その部分については悩みが多い印象だ。教科指導のあり方、子ども同士のトラブル、保護者への対応など、自分で進めていかなくてはならない中で、業務に追われてうまくいかないことに悩んでいる。もちろん、各学年で教科指導のあり方や学級づくりの仕方については、頻繁に話し合う機会を作っている。が、一日の業務の中で、うまくいかないことはたくさんある。どうしてうまくいかないのか、またそれを課題と捉えられるか、どう相談したらいいのかが難しい。経験のある教員も彼らの悩みを把握してそれを業務時間内で指導するほどの余裕もなかなかない。それら一つひとつについてどこまで相談できているか、ということについては反省も含めどこまでできているか、把握できていない部分もあるかと思う。

委員：単学級ではないとはいえ、担任業務は最終的には一人業務になろうと思う。新任だったらどうしたらいいのかわからないといった状況がある、とは聞いている。

校長：特殊な業務だとは思う。4月になると“担任の先生”として一人前の仕事を任される。一般的に言う研修期間があって、徐々に業務に慣れていくのだと思うが。

委員：今現在、休まれている職員はいない？

校長：今はいない。一つの学校で解決できる問題なのか、ということは感じる。根本的に人が足りない。千里丘は今のところ定数は足りているが、報道にもあるように人員不足が深刻で悩ましい問題だ。もがきながら頑張っている状況。

委員：横浜視察ですごいと思った気づきで、一つ二つ紹介していただけたら。

校長：例えば、学校探検。4月、入学したての一年生が校内を探検する取り組みだが、市内でよくある状況としては、2年生が誘導して学校を回って紹介する形で1年生はお客さんになっている。横浜では、主体的な学校探検を行っている。1年生に「〇〇を見つけてきて」「〇〇に誰がいるか、見ておいで」などお題が出され、その課題を解決すべく探検していく。より主体的な仕掛けがある。また、学校全体で取り組みを進めており、6年生の教室に行ったら、6年生が教室に招き入れてくれるなど、全校で1年生のスタートを大切にしている風土がある。

委員：お話を聞いていたら、即活かせそうなものがある。面白いなあ、と思うことは取り入れてやってみたらと思う。どのクラスでもどの先生でも行っている、という事になっているのだと思う。教室が歓迎してくれる雰囲気があるといい。自分が校長を務めていたとき、先生に歓迎ムードがあり、教室巡回の際も楽しんでくれていた。

組織の話だが、『一人一仕事』ではなく、『二人二仕事』であればいいかも。

横浜に視察に行って学んだことも含め、柔軟に進められたらいいと思う。

2. 確かな学力と体力を育む学校づくり

校長 （1）学力向上については、国語科の説明文を中心として、アウトプットを大切にした授業研究を進めてきた。講師を招いての研修を通して、認識が深まってきているという実感がある。しかしな

がら、日々の授業づくりというところでいうと、まだまだ未熟なところがある。

②足はやチャレンジを中心として、意識が向上していると思う。職員のアンケートの数値も上がっているし、保護者の意識も上がっていた。体育の外部講師を入れたことにより、体育の授業の際の怪我が減り、救急搬送を要する怪我が今年度はなかった。鉄棒の握り方、跳び箱での手のつき方など、安全確保するための視点を教師が持つようになってきている。

委員：学力向上についてもテストの結果が出ている。体力向上についても、足はやチャレンジも 2 回にわたって取り組んでおられる。課題もご自身で捉えておられて、この通りかと思う。

3. 信頼される学校づくり

校長：学校協議会からの意見を教職員に示すことで、職員の励みになっている。活発な学校協議会ができている、学校の経営に活かしている、という実感がある。

PTA についても、役員のなり手がいない、活動が難しい、といった課題を聞くが、本年度はコロナ禍でできることを進めることが出来た。ということで、◎とさせていただいた。

委員 これまで学校で取り組んでいる時に、学力は学力、その他、体力、人権、生指、とばらばらになっていることがよくあった。バラバラになっていると、組織として進まない。国レベルで言うと子どもの「生きる力」を育むことをめざすが、それは確かな学力、豊かな心、たくましく生きるための健康・体力から成るもの。この学校を見れば、笑顔輝く千小っ子、というスローガンがある。学力、体力などとばらばらに見るのではなく、総括的に見て、笑顔が輝いている実態があるのであれば、それでいいのでは？

校長：常に全員が笑顔か、というと難しい。理由は個人によっても違うが、この時期、登校が難しい、ということもあったりする。ただ、ずっと笑顔が消えている、ということはない。

委員：子供の笑顔を取り戻そう、という気持ちがあるのであれば、それでいいのかな、と思う。みんなに光を当てる、だれ一人取り残さない、という事が大切。校務分掌にしても、同じことが言える。そういうことを大切にしたい。

委員：できれば先生も笑顔で、取組んでもらえたらと思う。

委員：学校全体が笑顔になることが理想だ。

委員：思いやりチャレンジ。学校全体でやっているのが、よい。学校全体で効果が上がっているのではないかと思う。

委員：民生委員としてお礼を言いたい。500 枚以上のふれあい年賀便を子どもたちを書いてもらった。高齢者の方にとっても喜んでいただいた。

校長：今いただいた意見を再度ふり返って、教育委員会に提出したいと思う。

3. その他

校長：来週 1 月 27 日（金）に保護者、地域の方に、市教委から校舎建替えなどについて、詳しくご説明する。

4. 次回日程

次回は 2 月 16 日（木） 18：30～